

松山市役所の台所事情（だいどころじじょう）（松山市役所は赤字（あかじ）？ 黒字（くろじ）？）

松山市役所の台所事情（だいどころじじょう）を、家庭のお財布（かていのおさいふ）に例えてみましょう。

市民のみなさんが納めた（おさめた）税金（ぜいきん）などの収入（しゅうにゅう）を
お給料（きゅうりょう）25万円（1か月）（年収300万円）の家計（かけい）に例えると・・・

令和7年度

収 入（しゅうにゅう）：1ヶ月に入ったお金			（1年間の実際の額）
給料（きゅうりょう）	【税金（ぜいきん）など】	25万 円	1,521億2,883万円
おじいちゃんからの援助（えんじょ）	【国や県から入るお金】	12万4,500円	757億8,354万円
借金（しゃっきん）	【国や銀行からの借金：市債（しさい）】	2万0,200円	122億7,840万円
合 計		39万4,700円	2,401億9,077万円

支 出（ししゅつ）：1ヶ月に使ったお金			（1年間の実際の額）
家族（かぞく）の病院代（びょういんだい）	【扶助費】（ふじょひ）	13万2,300円	805億1,830万円
食費（しょくひ）	【人件費】（じんけんひ）	4万9,900円	303億6,863万円
親せきや友だちへの援助（えんじょ）	【補助費、出資金、貸付金】	3万9,200円	238億4,316万円
家や車の修理代（しゅうりだい）	【普通建設費、維持補修費など】	4万4,000円	267億4,441万円
こうねつすいひ（電気・ガス・水道・電話代など）	【物件費】（ぶつけんひ）	5万1,900円	315億9,475万円
借金（しゃっきん）の返済（へんさい）	【公債費】（こうさいひ）	2万6,700円	162億2,926万円
別に住む家族への仕送り（しおくり）	【繰出金】（くりだしきん）	3万5,100円	213億6,865万円
貯金（ちょきん）	【積立金】（つみたてきん）	8,600円	52億0,468万円
合 計		38万7,700円	2,358億7,183万円

★1か月の家計簿（かけいぼ）をまとめてみると

収入から支出を引いた差額	【形式収支】（けいしきしゅうし）	7,000円	43億1,894万円
次の月に使うことが決まっている額（一部しか払っていない修理代など）	【翌年度に繰り越すべき財源】	2,800円	17億1,040万円
実際の家計簿の黒字額（くろじがく）	【実質収支】（じっしつしゅうし）	4,200円	26億0,853万円

ということで・・・

→松山市役所の台所事情は、黒字（くろじ）です。まだ大丈夫。

→でもむだづかいすると、赤字（あかじ）になっちゃうから、大切に使わなきゃ！

■松山市役所のお金はどのように使われているの？

家の前にある道路、みなさんが通っている学校、いつもきれいな水が出ている水道、火事が起こったときにかけつける消防車など、あたりまえと思っていることには、すべてお金がかかっています。

みなさんの税金などをもとにした松山市役所のお金は、さまざまなところで私たちの生活に役立っているのです。

■松山市役所の収入にはどんなものがあるの？

収入の約3分の1は、私たちがおさめた市の税金です。

市税（しぜい）の主なものとしては、お父さんやお母さんが働いてもらえる給料（きゅうりょう）などの所得（しょとく）にあわせて払う（はらう）「市民税（しみんぜい）」、土地や家かけられる「固定資産税（こていしさんぜい）」などがあります。

市の収入には、これらの税金のほかに、国や県に払っている税金の一部を使ったお金もあります。たとえば、使いみちが決まっていない「地方交付税（ちほうこうふぜい）」、使いみちが決まっている「国庫支出金（こくこししゅつきん）」などです。

また、市債（しさい）という国や銀行などから借りるお金もあります。

<市税（しぜい・市の税金）の種類>

税金のなまえ	どんな人が払うの？	収入額
固定資産税（こていしさんぜい）	土地や家を持っている人が支払います。	約327億円
個人市民税（こじんしみんぜい）	会社員は給料、自分でお店をしている人は売り上げに応じてそれぞれ支払います。	約276億円
法人市民税（ほうじんしみんぜい）	松山市内の会社が支払います。	約67億円
市たばこ税（したばこぜい）	たばこを買った人が支払います。	約33億円
事業所税（じぎょうしょぜい）	仕事のための大きな建物をもっている会社が支払います。	約21億円
そ の 他	軽自動車をもっている人や、温泉に入る時にかかる税金があります。	約19億円

■なぜ黒字なのに借金（しゃっきん）するの？

どこの市も市債（しさい）を発行（はっこう）してお金を借りています。国も同じことをして、日本政府が発行（はっこう）する国債（こくさい）という借金（しゃっきん）があります。市債（しさい）や国債（こくさい）は、政府（国）や銀行、国民などから長い期間で借りるお金で、いわばローンみたいなものです。

例えば、学校を建てかえるとしましょう。

学校を建てるのには、たくさんのお金が必要です。借金（しゃっきん）をせずに、私たちがおさめている税金だけでやりくりしようとする、と、たくさんのお金が必要です。お父さんやお母さんは、今よりもっと高い税金を払わなければならないかもしれません。もしかしたら、きみのおこづかいもなくなっちゃうかも。

では、将来この学校に通う人たちはどうでしょう？・・・ただで学校を使うことになります。おこづかいがなくなることもありません。これって、不公平ですよ。たまたま学校を建てかえるときに通っていたというだけでおこづかいをなくされてはたまりません。

学校や道路などのたくさんのお金がかかる公共施設（こうきょうしせつ）は、丈夫（じょうぶ）で長持ちするようにつくられ、いくつかの世代（せだい）にわたって利用されるものなので、わたしたち今の市民と、将来（しょうらい）利用（りよう）する市民が、平等（びやうどう）に負担（ふたん）をするために、長期（ちょうき）にわたるローンを利用（りよう）するのです。

なお、借りたお金は利子（りし）といっしょに借りた相手（国や銀行など）に返さなければなりません。松山市では、将来（しょうらい）の市民の負担（ふたん）が大きくなりすぎないように、また一時的な出費が大きくなりすぎないように、計画的に市債（しさい）という制度（せいど）を利用（りよう）しています。

■どんな経費（けいひ）が増えたり減ったりしているの？

入ってきた主なお金	令和7年度 収入額	増減額（増減率） [令和6年度と比較]
市税（しぜい）：市民のみなさんが納めた税金	約744億円	+36億円（+5.2%）
国庫支出金（こっこししゅつきん）：使いみちが決まっている国からのお金	約575億円	+25億円（+4.6%）
地方交付税（ちほうこうふぜい）：使いみちが自由な国からのお金	約314億円	+27億円（+9.4%）

使った主なお金	令和7年度 支出額	増減額（増減率） [令和6年度と比較]
扶助費（ふじょひ）：困っている人を助けるためのお金	約805億円	+14億円（+1.7%）
普通建設事業費（ふつうけんせつじぎょうひ）：学校や道路をつくるお金	約241億円	+21億円（+9.8%）
物件費（ぶっけんひ）：物を買うために必要なお金	約316億円	+16億円（+5.2%）